



2011年8月

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

すこやかな透析生活を送っていただくために～脳卒中について～

合併症対策分析・広報部 課長 桜井 寛

・脳卒中とは？

脳卒中とは急激に意識を失って倒れ、半身不随に陥るのが典型的な症状である疾患の総称で、脳の血管の障害（脳血管障害）によって発生する症状です。脳卒中を大きく分類すると脳出血・クモ膜下出血・脳梗塞・一過性脳虚血・高血圧性脳症に分けられます。脳卒中は JSDT（日本透析医学会）の 2010 年末調査では、透析患者さんの死亡原因の第 4 位で割合としては年々減ってきています（図 1）。しかし、それは脳卒中に対する治療技術の進歩によるもので、糖尿病を合併する患者さんが増えている現状では、発症件数が激減することはないと思われるその対策が必要となります。

透析患者さんの脳卒中は、一般人と比べ脳梗塞よりも脳出血の頻度が高いのが特徴とされてきました。しかし、導入年齢の高齢化や糖尿病からの透析導入者の増加、透析機器の進歩に伴うペパリン使用量の減少、エリスロポエチン導入による貧血改善などにより、脳梗塞が増加傾向にあることが明らかにされています。

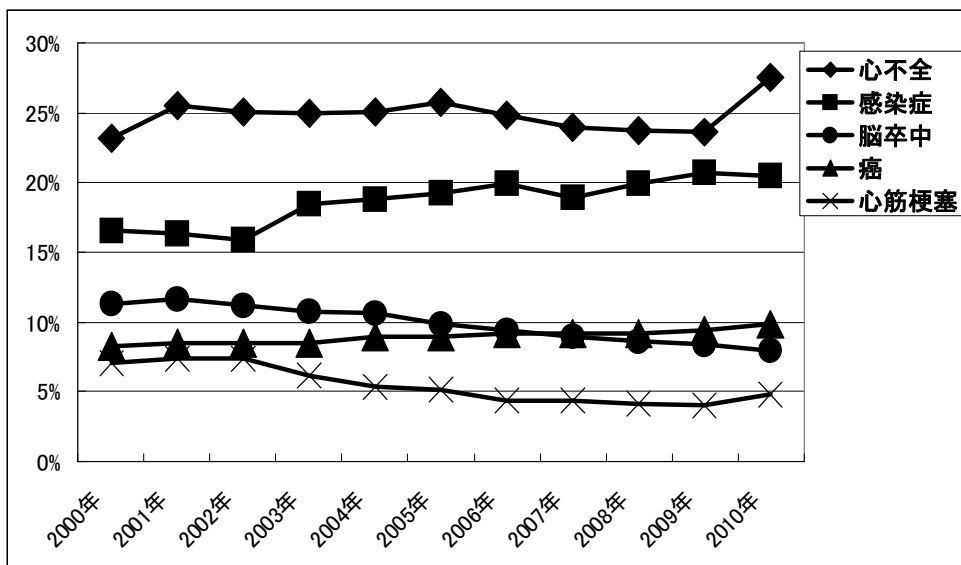


図 1
年別死亡原因推移
(JSDT 調査)